

# 在外教育施設における防災教育の実践

前デュッセルドルフ日本人学校教諭

京都府福知山市立夜久野中学校教諭 小森 弘毅

キーワード：在外教育施設、防災教育、中学校社会、地理

赴任校の概要(2021年3月31日現在)

学校名・日本語:デュッセルドルフ日本人学校

学校名・現地表記: Japanische Internationale Schule e.V. in Düsseldorf

<http://www.jisd.de/>

## 1. はじめに

日本では、大規模な地震災害が発生している。地震災害のみならず、大雨・台風等による自然災害も多発している。その中で、学校教育における防災教育の意義は、年々高まってきている。日本国内では積極的に防災授業が実践されている。しかし、災害の少ないヨーロッパにある本校では、教科内での指導にとどまっており、生徒へのアンケート結果から見ても、災害に関心を持ち、備えるという意識は高くはない。日本では当たり前に行われている災害発生時に備えた避難訓練も、本校では不審者の侵入に備えた避難訓練が中心である。しかし、本校の生徒の多くは日本に居住する可能性があり、帰国後に災害に遭遇する可能性は低くはない。災害発生時に対応できる力を身に付けるために、学校教育における防災教育の重要性は高い。

本実践は、中学校社会科の単元「世界から見た日本の自然環境」の中で取り組んだ実践である。本実践に際して、自然地理学・防災教育の研究に取り組んでおられる山形大学地域文化学部八木浩司教授、村山良之教授にご指導とご助言をいただき、オンライン講義を行っていただいた。

## 2. 授業実践

山形大学地域教育学部八木浩司教授、山形大学地域教育学部村山良之教授に来独いただき、対面による防災教育の授業を計画していた。しかし、コロナ禍の影響で来独が困難になり、オンラインでの講義になった。当日は中学部2学年30名、教職員数名が講義を受講した。

以下に授業の概要を示す。



(1) 授業单元

中学社会 世界から見た日本の自然環境 「自然災害と防災への取り組み」

(2) 授業当日まで

- ①オンラインにおいて両教授と事前打ち合わせ。
- ②生徒へのアンケート実施 ※資料①

(3) 授業当日 2時間扱い



オンラインでの講義の様子

①災害発生メカニズム (八木教授)

テーマ「災害を知る」

内容：日本で起こりやすい災害や被災しやすい地形についての解説。

水害が起きやすい沖積平野の解説。

国土地理院のデータをもとに干拓地の解説。

②防災の基礎知識 (村山教授)

テーマ「大雨や地震による被害を少なくするために」

内容：災害発生時の調査結果をもとにして避難の重要性。災害発生に備えて準備しておかなければならないこと。

日本の自然災害への対策。

(3) 授業後

①感想交流 ※資料②

授業を受けて感想交流を行った。防災意識の高まりを感じる事が出来た。また、家庭において国土地理院地図を使い、家族と危険個所の確認を行った生徒もいた。

②国土地理院地図・ハザードマップを使っでのワークショップ

日本において居住可能性のある地域の土地利用図をもとに、危険地域の予測を行い、ハザードマップを使用したグループワークも行った。

### 3. 資料

以下に生徒アンケートの結果の一部と授業後の生徒の感想を記す。

①生徒アンケート結果の一部 (資料①)

直近の日本での居住地	河川、海までどのくらい	防災学習の経験	その他
愛知県名古屋	近くに河川あり、海まで30分くらい	防災学習の経験なし	
富山県富山市		防災学習の経験なし	
神奈川県横浜市泉区	川が近くにある	小学校で何回か	
埼玉県さいたま市	荒川	防災学習の経験なし	
東京都世田谷区	近くに河川はない	防災学習の経験なし	
神奈川県藤沢市	海まで自転車で10分	小学校で何回か	
神奈川県藤沢市	海まで自転車で10分	小学校で何回か	
埼玉県入間市	遠い	地震	
川崎市・仙台市	海までは遠い	地震	
東京		防災学習の経験なし	
静岡県浜松市	海から5 km	防災学習の経験なし	
東京都足立区	隅田川まで2km	防災学習の経験なし	
神奈川県横浜市	近い	防災学習の経験なし	
東京都目黒区	海まで10km	学校の避難訓練	
和歌山県海南	家の近くが海	学校の避難訓練	
愛知県名古屋	川から500m	学校の避難訓練	
兵庫県神戸市	遠い	地震の訓練	
東京都小金井市	川まで5km	防災訓練	
兵庫県宝塚市	海まで10km	記憶にない	
愛知県大府市	海まで15km	防災訓練	
山口県光市	家から200mの所に河川	防犯訓練	
ドイツ在住	ライン川	学習経験なし	
静岡県浜松市	海から近い	津波の学習	
千葉県佐倉市	近くにはない	火災訓練のみ	
愛知県豊田市	覚えていない	避難訓練	
千葉県市原市	川が近くにある	東日本大震災の防災学習	
東京都目黒区	海まで20km	記憶にない	震災当時仙台在住
奈良県奈良市	遠い	地震	

②生徒感想 (資料②)

- ・自分の住んでいるデュッセルドルフが浸食された台地だということは知らなかった。災害が地形と関係していることに驚いた。
- ・ドイツが平野な理由がよく分かった。同じ東京でも新宿と浅草で高さが違うことに驚いた。干拓地のリスクが分かった。
- ・自分の住んでいた地域は活断層や津波が来るリスクが高いかもしれないので、今日教わったことを思い出して帰国時にいかしたい。
- ・今日の防災学習を通して、災害は思っているよりも身近なものだと感じた。
- ・先生の話聞いて、日本に帰った時は、その場所のことを知り、調べなければならぬと思いました。
- ・自分の住んでいる地域が形成されてきた歴史を知ることや、プレートや活断層の位置を知ることによって、被害が予測できることを知った。
- ・率先して避難することで、自分の命を守るだけでなく、周りの人の命も救うことになる。もし災害が起きたら自分が真っ先に避難しようと思った。
- ・災害を正しく恐れようと思った。

・普段は受けられない大学の先生の専門的な授業を受けられてよい経験になった。

### 3. まとめ

自然災害はきわめて地域的な現象であるので、学校の防災教育においては、当該地域で想定すべき災地条件と社会的条件を踏まえることが必要であるが、災害のリスクが低い地域に位置する海外日本人学校で学ぶ子どもたちにとっては、現実感をもって理解することは難しい。しかし、自然災害が多発している日本に帰国する可能性のある子どもたちにとって防災教育の意義は大きい。社会科の地理教育において授業実践を行ったが、自然災害のメカニズム等の理解は、防災行動の必要性の理解、ひいては適切な防災行動につながると考える。今回は、八木教授、村山教授の専門性の高い講義を受けることができ、子どもたちにとっても、指導者である教員にとっても意義のあるものであった。コロナ禍の影響でオンラインでの実施となったが、オンラインであれば、専門的な講義をどこにいても受けられ、他の日本人学校での実践も可能であると考えられる。